

歴代消防長

初代消防長(兼署長)	消防司令長	佐々木 重信 (昭和23年 2月 5日～昭和37年11月30日：退職)
第2代消防長(兼署長)	消防司令長	角田 兼太郎 (前職：大阪市消防局) (昭和37年12月 1日～昭和44年 1月30日：退職)
第3代消防長(兼署長)	消防監	祝 勝巳 (前職：消防本部次長) (昭和44年 2月 1日～昭和54年 1月31日：退職)
第4代消防長(兼署長)	消防監	磯辺 忠夫 (前職：消防本部次長) (昭和54年 2月 1日～昭和59年 3月31日：退職)
第5代消防長	消防監	大橋 正治 (前職：消防署長) (昭和59年 4月 1日～昭和61年 3月31日：退職)
第6代消防長	消防監	上浦 洋志 (前職：消防本部次長兼消防署長) (昭和61年 4月 1日～平成 4年 7月17日：退職)
第7代消防長	消防監	梶田 功 (前職：箕面市総務部長) (平成 4年 8月 1日～平成 6年 4月14日)
第8代消防長	消防監	坂口 征男 (前職：箕面市健康福祉部長) (平成 6年 4月15日～平成 6年12月11日)
第9代消防長	消防監	木村 忠利 (前職：消防本部次長) (平成 6年12月12日～平成13年 3月31日)
第10代消防長	消防監	高崎 和男 (前職：消防本部次長) (平成13年 4月 1日～平成14年 3月31日：退職)
第11代消防長	消防監	矢野 広二 (前職：消防本部次長) (平成14年 4月 1日～平成20年 3月31日：退職)
第12代消防長	消防監	上田 道博 (前職：消防本部総務次長兼消防次長) (平成20年 4月 1日～平成22年 3月31日：退職)
第13代消防長	消防監	三上 照男 (前職：消防本部消防次長兼次長) (平成22年 4月 1日～)

歴代消防署長

初代消防署長	消防司令長 佐々木 重信
第2代消防署長	消防司令長 角田 兼太郎 (前職：大阪市消防局)
第3代消防署長	消防監 祝 勝巳 (前職：消防本部次長)
第4代消防署長	消防監 磯辺 忠夫 (前職：消防本部次長)
第5代消防署長	消防司令長 大橋 正治 (前職：消防署警備司令) (昭和54年 4月 1日～昭和59年 3月31日)
第6代消防署長	消防司令長 上浦 洋志 (前職：消防本部次長兼任) (昭和59年 4月 1日～昭和61年 3月31日)
第7代消防署長	消防司令長 木村 忠利 (前職：消防本部次長兼警備課長) (昭和61年 4月 1日～平成 3年 3月31日)
第8代消防署長	消防司令長 米沢 範一 (前職：消防本部総務課長) (平成 3年 4月 1日～平成 4年 7月17日：退職)
第9代消防署長	消防司令長 木村 忠利 (前職：消防本部次長兼総務課長) (平成 4年 8月 1日～平成 5年 4月 6日)
第10代消防署長	消防司令長 中尾 揮一 (前職：通信指令室長) (平成 5年 4月 7日～平成 6年12月11日)
第11代消防署長	消防司令長 甲良 一起 (前職：消防署参事) (平成 6年12月12日～平成 9年 6月30日)
第12代消防署長	消防司令長 高崎 和男 (前職：消防本部総務課長) (平成 9年 7月 1日～平成12年 3月31日)
第13代消防署長	消防司令長 中尾 揮一 (前職：消防本部次長) (平成12年 4月 1日～平成13年 3月31日)
第14代消防署長	消防司令長 中村 知 (前職：消防署警備第1課長) (平成13年 4月 1日～平成16年 3月31日：退職)
第15代消防署長	消防司令長 中村 保 (前職：消防本部警備課長) (平成16年 4月 1日～平成20年 3月31日：退職)
第16代消防署長	消防司令長 東 孝 (前職：消防署副理事兼専任参事) (平成20年 4月 1日～)

歴代消防団長

初代団長	中川 半次郎	(就任：昭和23年 1月 1日～退任：昭和24年12月31日)
第2代団長	藤井 義一	(就任：昭和25年 1月 1日～退任：昭和30年12月31日)
第3代団長	瀧井 璣	(就任：昭和31年 1月 1日～退任：昭和35年12月31日)
第4代団長	武藤 善一	(就任：昭和36年 1月 1日～退任：昭和41年 3月31日)
第5代団長	中井 貴次	(就任：昭和41年 4月 1日～退任：昭和43年 3月31日)
第6代団長	浅井 正二	(就任：昭和43年 4月 1日～退任：昭和46年 3月31日)
第7代団長	小路 庄次郎	(就任：昭和46年 4月 1日～退任：昭和54年 3月31日)
第8代団長	垣内 佳夫	(就任：昭和54年 4月 1日～退任：平成 8年 3月31日)
第9代団長	中井 博幸	(就任：平成 8年 4月 1日～退任：平成16年 3月31日)
第10代団長	豊田 茂実	(就任：平成16年 4月 1日～)

褒章・叙勲等受章者一覧

元警備第2司令	中川 伊佐武	昭和58年春の叙勲「勲六等瑞宝章」受章 (昭和58年 4月29日)
初代消防長(兼署長)	佐々木 重信	昭和59年秋の叙勲「勲五等瑞宝章」受章 (昭和59年11月 3日)
第2代消防長(兼署長)	角田 兼太郎	昭和60年春の叙勲「勲六等旭日单光章」受章 (昭和60年 4月29日)
第3代消防長(兼署長)	祝 勝巳	平成 2年春の叙勲「勲五等瑞宝章」受章 (平成 2年 4月29日)
第8代団長	垣内 佳夫	平成 5年春の褒章「藍綬褒章」受章 (平成 5年 4月29日)
第4代消防長(兼署長)	磯辺 忠夫	平成11年秋の叙勲「勲五等瑞宝章」受章 (平成11年11月 3日)
元副団長	平井 甚一	平成18年春の叙勲「瑞宝单光章」受章 (平成18年 4月29日)
元通信指令室長	平井 一博	平成18年秋の危険業務従事者叙勲「瑞宝单光章」受章 (平成18年11月 3日)
元予防課長	佐伯 薫	平成19年春の危険業務従事者叙勲「瑞宝单光章」受章 (平成19年 4月29日)
元警備第1課長補佐	角村 威是	平成19年秋の危険業務従事者叙勲「瑞宝单光章」受章 (平成19年11月 3日)
元警備第1課主幹	辻岡 靖信	平成20年春の危険業務従事者叙勲「瑞宝单光章」受章 (平成20年 4月29日)
第5代消防長	大橋 正治	平成20年秋の危険業務従事者叙勲「瑞宝双光章」受章 (平成20年11月 3日)
元総務課副主幹	奥山 義晴	平成21年春の危険業務従事者叙勲「瑞宝单光章」受章 (平成21年 4月29日)
元通信指令室長	甲良 一起	平成21年秋の危険業務従事者叙勲「瑞宝双光章」受章 (平成21年11月 3日)

箕面市消防本部の沿革

昭和時代	
22年 12月 23日	○消防組織法が公布され、警察の管理から完全に独立した市町村の自治体消防制度が確立された。
23年 1月 1日	○箕面町制施行
〃	○大阪府池田消防署から分離し平尾分団詰所に箕面町消防署設置
2月 4日	○管轄区域：箕面町、萱野村（人員 9 名、日産大型消防ポンプ自動車 1 台）
3月 7日	○消防組織法施行により自治体消防として町に移管開署（人員 10 名、消防ポンプ自動車 1 台）
8月 1日	○箕面町・萱野村・止々呂美村合併、これに伴い箕面町消防本部・消防署と改称（署員 15 名・消防団 20 分団・団員 694 名・消防ポンプ自動車 3 台・手引動力ポンプ 9 台・腕用ポンプ 20 台）
10月 30日	○箕面町消防本部（署）庁舎 39.6 m ² を増築し 92.4 m ² となる。
24年 12月 20日	○危険物保安条例により庁舎北側に危険物貯蔵庫（9.9 m ² ）新設 ○消防職員定数 15 名を 27 名に条例改正
25年 1月 1日	○「消防記念日」が制定される。
31年 12月 1日	○三島郡豊川村を合併、市制施行、これに伴い箕面市消防本部・消防署と改称、豊川村消防団 4 分団を加えて 24 分団 644 名の定員となる。
12月 25日	○境界変更により旧豊川村東部を茨木市に編入
32年 4月 1日	○境界変更により茨木市の一部川合地区を箕面市に編入
35年 7月 1日	○国家消防本部が「自治省消防庁」と改められた。
9月 1日	○関東大震災（大正 12 年 9 月 1 日）に因んで「防災の日」が制定される。
36年 10月 1日	○消防救急隊規則制定に基づき救急業務を開始
38年 7月 3日	○消防庁舎を西小路 91 番地に起工
12月 21日	○消防本部（署）新庁舎竣工 （所在地：箕面市西小路 91 番地） 敷地面積 1,406.00 m ² 建築規模 R C 造 2 階建 築面積 307.52 m ² 延床面積 497.14 m ²
12月 24日	○消防職員定数 27 名を 35 名に条例改正
39年 3月	○大阪府知事から表彰旗を授与される。
8月 8日	○箕面市危険物防火協力会結成、箕面市消防本部内に事務局を置く。（初代会長台正彦氏、顧問角田消防長会員数 25）
8月 18日	○箕面市少年消防クラブ結成（クラブ員数 111 名）
40年 6月 28日	○茨木市と消防相互応援協定締結
7月 2日	○吹田市と消防相互応援協定締結

41年 4月 1日	○「箕面市危険物防火協力会」を『箕面市防火協会と名称変更』
42年 4月 1日	○豊中市及び池田市と各消防相互応援協定締結
43年 12月 25日	○消防職員定数 35 名を 40 名に条例改正
45年 1月 1日	○「人類の進歩と調和」をテーマとした国際的大事業である日本万国博覧会が吹田市千里丘陵で開幕され、会場警備のため、吹田市万国博消防署へ 2 名派遣
3月 1日	○万国博覧会会場警備のため吹田市万国博消防署へ 3 名派遣
9月 16日	○吹田市万国博消防署派遣者 5 名、派遣を解く。
9月 22日	○消防本部（署）庁舎車庫（RC 平家建 66 m ² ）増築
10月 10日	○大阪市と大阪市航空消防応援協定締結
47年 3月 1日	○東能勢村（現豊能郡豊能町）と消防相互応援協定締結（火災防ぎよのみ）
4月 1日	○消防職員定数 40 名を 47 名に条例改正
〃	○消防本部（署）組織機構改革 1 本部 1 署（2 課 4 係） 本部総務課（庶務係・予防係） 本署警備課（警備第 1 係・警備第 2 係）
12月 25日	○消防職員定数 47 名を 65 名に条例改正 ○消防本部（署）庁舎増築（事務室及び仮眠室 75 m ² ）
49年 2月 1日	○川西市と消防特別相互応援協定締結
4月 1日	○消防署東分署竣工 （所在地：箕面市粟生外院 270 番地の 4） 敷地面積 1,639.04 m ² 建築規模 RC 造 2 階建 建築面積 372.56 m ² 延床面積 514.64 m ²
〃	○消防本部（署）組織機構改革 1 本部 1 署 1 分署（2 課 7 係） 本部 総務課（庶務係・予防係） 警備課（警備企画係） 本署 （警備第 1 係・警備第 2 係） 東分署（警備第 1 係・警備第 2 係）
8月 1日	○消防特別救助隊、東分署に発足
50年 7月 1日	○消防職員定数 65 名を 85 名に条例改正
51年 7月 1日	○消防署西分署竣工 （所在地：箕面市瀬川 3 丁目 1 番 56 号） 敷地面積 2,152.00 m ² 建築規模 RC 造 2 階建 建築面積 386.57 m ² 延床面積 542.94 m ²
〃	○消防本部（署）組織機構改革 1 本部 1 署 2 分署（2 課 9 係） 本部 総務課（総務係）

<p>53年12月15日</p>	<p>警防課（予防係・警備企画係） 本署（警備第1係・警備第2係） 東分署（警備第1係・警備第2係） 西分署（警備第1係・警備第2係）</p> <p>○消防署西分署に訓練塔竣工</p> <p>訓練塔 建築規模 RC造 7階建 20m 建築面積 33.49 m² 延床面積 231.00 m²</p> <p>補助訓練塔 建築規模 S造 3階建 9m 建築面積 26.93 m² 延床面積 60.00 m²</p>
<p>56年3月30日 57年4月29日 60年4月1日</p>	<p>○消防職員定数85名を90名に条例改正 ○箕面市婦人防火クラブ結成（3クラブ139名） ○消防本部・消防署合同庁舎竣工 （所在地：箕面市箕面5丁目11番19号） 敷地面積 3,971.01 m² 建築規模 RC造 3階建 一部屋根 S造 建築面積 1,385.63 m² 延床面積 3,359.39 m²</p>
<p>60年4月1日 〃 5月1日 61年7月19日</p>	<p>〔消防通信指令装置導入〕 ○消防職員定数90名を94名に条例改正 ○箕面市と豊能町消防相互応援協定締結 ○消防本部（署）組織機構改革 1本部1署2分署（4課12係） 本部 総務課（総務係） 警防課（予防査察係・設備指導係・警備企画係） 本署 警備第1課（警備第1係・救急第1係） 警備第2課（警備第2係・救急第2係） 東分署（警備第1係・警備第2係） 西分署（警備第1係・警備第2係）</p>
<p>63年12月26日</p>	<p>○東分署の前面道路拡幅に伴い86.7 m²を都市整備部へ移管し、敷地面積1,552.34 m²となる。</p>
<p>平成時代 元年4月1日 2年4月1日 3年4月1日</p>	<p>○豊能町消防相互応援協定に関する覚書締結 （止々呂美地域の救急業務応援要請について） ○消防職員定数94名を97名に条例改正 ○消防本部（署）組織機構改革 1本部1署2分署（4課1室13係） 本部 総務課（総務係） 予防課（設備指導係・予防査察係） 本署（警備企画係） 警備第1課（警備第1係・救急第1係） 警備第2課（警備第2係・救急第2係）</p>

<p>4年 4月 1日 4月 4日</p>	<p>通信指令室 (通信係) 東分署 (警備第1係・警備第2係) 西分署 (警備第1係・警備第2係)</p> <p>○消防職員定数 97 名を 100 名に条例改正</p> <p>○消防本部 (署) 組織機構改革</p> <p>1 本部 1 署 2 分署 (4 課 1 室 13 係)</p> <p>本部 総務課 (総務係) 予防課 (設備指導係・予防査察係)</p> <p>本署 (警備企画係) 警備第1課 (警備第1係・救急第1係) 警備第2課 (警備第2係・救急第2係) 通信指令室 (通信係) 東分署 (警備第1係・警備第2係) 西分署 (警備第1係・警備第2係)</p>
<p>5年 4月 1日 6年 4月 15日</p>	<p>○消防職員定数 100 名を 106 名に条例改正</p> <p>○消防本部 (署) 組織機構改革</p> <p>1 本部 1 署 2 分署 (5 課 1 室 12 係 1 担当)</p> <p>本部 総務課 (総務係) 予防課 (設備指導係・予防査察係) 警備課 (警備企画係)</p> <p>本署 警備第1課 (警備第1係・救急第1係) 警備第2課 (警備第2係・救急第2係) 通信指令室 (通信担当) 東分署 (警備第1係・警備第2係) 西分署 (警備第1係・警備第2係)</p>
<p>8年 4月 1日 9年 7月 1日</p>	<p>○消防職員定数 106 名を 107 名に条例改正</p> <p>○消防本部 (署) 組織機構改革 (係制廃止)</p> <p>1 本部 1 署 2 分署 (5 課 1 室 12 グループ)</p> <p>本部 総務課 予防課 (設備指導G・予防査察G) 警備課</p> <p>本署 警備第1課 (警備第1G・救急第1G) 警備第2課 (警備第2G・救急第2G) 通信指令室 (通信第1G・通信第2G) 東分署 (警備救急第1G・警備救急第2G) 西分署 (警備救急第1G・警備救急第2G)</p>
<p>11年 4月 1日</p>	<p>○消防本部 (署) 組織機構改革 (総務担当設置)</p> <p>1 本部 1 署 2 分署 (1 担当 5 課 1 室 12 グループ)</p> <p>本部 総務担当 総務課 予防課 (設備指導G・予防査察G) 警備課</p> <p>本署 警備第1課 (警備第1G・救急第1G)</p>

13年 4月 1日

警備第2課 (警備第2G・救急第2G)
通信指令室 (通信第1G・通信第2G)
東分署 (警備救急第1G・警備救急第2G)
西分署 (警備救急第1G・警備救急第2G)

○消防本部 (署) 組織機構改革

1本部1署2分署 (1担当5課1室2グループ)

本部 総務担当
総務課
予防課
警備課

本署 警備第1課
警備第2課
通信指令室 (通信第1G・通信第2G)
東分署
西分署

17年 4月 1日

○消防本部 (署) 組織機構改革

1本部1署2分署 (5課1室1担当)

本部 総務課
予防課
警備課

本署 企画調整・高度救急担当
警備第1課 東分署
西分署
警備第2課 東分署
西分署

通信指令室

18年 3月 15日

○消防通信指令装置更新整備

[高機能消防指令センターHA3000Ⅱ型]

18年 4月 1日

○消防職員定数107名を111名に条例改正

21年 4月 1日

○消防本部 (署) 組織機構改革

1本部1署2分署 (5課1室1担当)

本部 総務課
予防課
警備課

本署 救急・企画担当
警防第1課 東分署
西分署
警防第2課 東分署
西分署

通信指令室

箕面市消防団の沿革

江戸時代	○当時は、代官の支配に属し、雲竜水を備えて、消防活動が行われていた。
明治時代 22年 4月 1日 27年 2月 9日	○町村制施行により箕面村・萱野村・止々呂美村誕生 (各村に腕用ポンプ購入配置) ○消防組規則公布により箕面村・萱野村・止々呂美村に各消防組が結成された。
大正時代	○科学消防の必要が叫ばれた時代 (蒸気ポンプ1台及び手引動力ポンプ購入)
昭和時代 14年 1月 4月 1日 22年 4月 30日 23年 1月 1日 23年 8月 1日 25年 3月 7日 31年 12月 1日 34年 3月 38年 3月 43年 3月 44年 4月 1日 47年 3月 15日 50年 3月 4日 62年 10月 18日	○消防組規則(明治27年以来)が廃止、警防団令が公布された。 ○警防団令施行により箕面村警防団(8分団 320名・ポンプ自動車3台・手引動力ポンプ4台・腕用ポンプ1台)と改称し、戦時下の警備に従事した。 消防行政は、警察行政の一分野として内務省警保局の所管に属していたので、常備消防及び警防団は、警察署長が管理していた。 ○消防団令の公布により警防団を廃止、箕面村消防団を結成発足し9分団 474名の定員となる。(ポンプ自動車3台・手引動力ポンプ4台・腕用ポンプ1台) ○箕面町制施行に伴い箕面町消防団に改称 ○箕面町・萱野村・止々呂美村合併に伴い萱野村消防団、止々呂美村消防団を加え20分団 694名の定員となる。(消防ポンプ自動車3台・手引動力ポンプ9台・腕用ポンプ20台) ○消防団員定数 694名を 550名に条例改正 ○三島郡豊川村を合併、市制施行、これに伴い箕面市消防団に改称するとともに、豊川村消防団 4分団を加えて 24分団 644名の定員となる。 ○(財)大阪府消防協会から表彰旗が授与される。 ○消防庁長官から竿頭綬を授与される。 ○(財)日本消防協会から表彰旗が授与される。 ○桜ヶ丘分団が解散し、23分団 624名の定員となる。 ○大阪府知事から竿頭綬が授与される。 ○消防庁長官から表彰旗が授与される。 ○坊島分団「第31回大阪府消防操法訓練大会」優勝
平成時代 2年 9月 2日 10月 12日 11年 2月 9日 13年 2月 9日 14年 3月 24日	○粟生分団「第34回大阪府消防操法訓練大会」優勝 ○粟生分団「第12回全国消防操法大会」へ出場 (於：横浜市・日本消防協会中央消防訓練場) ○(財)日本消防協会から特別表彰「まとい」が授与される。 ○(財)日本消防協会から竿頭綬が授与される。 ○大阪府知事から表彰旗が授与される。

14年 9月 1日	○半町分団「第46回大阪府消防操法訓練大会」優勝
14年 10月 24日	○半町分団「第18回全国消防操法大会」へ出場 (於：横浜市・日本消防協会中央消防訓練場)
16年 3月 21日	○(財)大阪府消防協会から表彰旗が授与される。
20年 7月 13日	○(財)大阪府消防協会から牧落分団に「大阪の消防大賞」が授与される。
20年 9月 7日	○下止々呂美分団「第52回大阪府消防操法訓練大会」優勝
22年 2月 10日	○(財)日本消防協会から表彰旗が授与される。